製 品 安 全 デ ー タ シ ー ト

1, 化学物質等及び会社情報

製品名　　(化学用)　クロム酸ストロンチウム　　Strontium chromate
整理番号　27555
作成日　　2000 年 10 月 21 日
改訂日　　2011 年　5月 19 日

会社名　　純正化学株式会社
本社住所　　〒103-0023　東京都中央区日本橋本町 4-4-16
●連絡先及び緊急連絡先 (MSDS 作成担当)
担当部門　　営業本部　　学術担当
担当住所　　〒343-0844 埼玉県越谷市大間野町1－6
電話番号　　048-988-3621　FAX 番号 048-988-6689
E-mail: shiyaku-t@junsei.co.jp
http://www.junsei.co.jp

用途と使用上の注意: 本製品は試薬ですので、試験研究用以外には使用しないで下さい。

2, 危険有害性の要約

【GHS 分類】 NITE 分類(ID=109)

物理化学的危険性

可燃性固体	:区分外
自然発火性固体	:区分外
自己発熱性化学品	:区分外
水反応性可燃性物質	:区分外

健康に対する有害性

急性毒性 経口	:区分 4
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	:区分 1
呼吸器感作性	:区分 1
皮膚感作性	:区分 1
発がん性	:区分 1A

(注) 危険有害性の分類で、「分類対象外」及び「分類出来ない」は項目を省いた。

【GHS ラベル要素】

【GHS 絵表示】

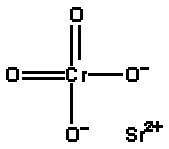
【注意喚起語】

危険

【危険有害性情報】
飲み込むと有害（経口）
重篤な眼の損傷
吸入するとアレルギー、ぜん（喘）息又は呼吸困難を起こすおそれ
アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
発がんのおそれ

【注意書】
【安全対策】
・使用前に取扱説明書を入手する。
・すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
・取扱い後はよく手を洗う。
・汚染された作業衣は作業場から出さない。
・個人用保護具や換気装置を使用し、暴露を避ける。
・保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用する。
・換気が十分でない場合には、呼吸用保護具を着用する。
・粉じんの吸入を避ける。
・環境への放出を避ける。
【応急措置】
・眼に入った場合、水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。
・皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗う。
・皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受ける。
・衣類にかかった場合、汚染した衣類を再使用する場合には洗濯すること。
・飲み込んだ場合、口をすすぐ。無理に吐かせない。
・吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸し易い姿勢で休息させる。
・呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡する。
・暴露又は暴露の懸念がある場合は、医師の診断、手当てを受ける。
・漏出物を回収する。
【保管】
・施錠して保管する。
【廃棄】
・中身及び容器の廃棄は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の処理業者に依頼する。

3，組成、成分情報
単一製品・混合物の区別：単一製品
化学名：クロム酸ストロンチウム
別名：ストロンチウムクロメート
化学式：SrCrO4
CAS No：7789-06-2
EINECS No：232-142-6
含有量：95.0%以上
化審法：1-288
安衛法：公表
構造式



4, 応急措置

○ 吸入した場合:新鮮な空気と安静。必要な場合には人工呼吸。医師に連絡。

○ 皮膚に付着した場合:汚染された衣服を脱がせ、水と石けんで皮膚を洗浄。医師に連絡。

○ 眼に入った場合:先ず数分間、多量の水で洗い流す(できればコンタクトレンズをはずす)。医師に連れて行く。

○ 飲み込んだ場合:意識あるなら、口をすすぐ。意識なければ、何も与えない。医師に連絡。

予想される急性症状及び遅発性症状:

吸入:咳、咽頭痛

皮膚:発赤、皮膚炎、潰瘍

眼:発赤、痛み、結膜炎

経口摂取:咽頭痛、腹痛

最も重要な徴候及び症状: データなし

応急措置をする者の保護に必要な注意事項: データなし

医師に対する特別な注意事項: データなし

5, 火災時の措置

消火剤

水スプレー、粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素。

使ってはならない消化剤

棒状注水

消火方法

周辺火災の場合、出切る限り速やかに容器を火災現場より遠ざける。移動不可能な場合は容器及び周囲に散水して冷却する。

着火した場合は風下の人を退避させ火元への燃料源を断ち、風上より消火剤を使用して消火する。消火に当たっては保護具を着用する。

特有の危険有害性: データなし

特有の消火方法: 容器内に水を入れない。

消火を行う者の保護のために着用する保護具:防火保護服、手袋に加え、空気呼吸器等を着用する。

6, 漏出時の措置

人体に対する注意事項

暴露しないよう十分な換気のもと保護具着用して行う。

保護具及び緊急時措置

「8. 暴露防止及び保護措置」における、保護具着用

環境に対する注意事項

上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。

回収、中和

漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、安全な場所に移す。回収後、汚染区域を還元剤(硫酸第一鉄等)の水溶液を散布し、消石灰、ソーダ灰等で処理した後、多量の水で洗い流す。

7, 取扱い及び保管上の注意

取扱い

－蒸気、ミスト、ガスが、皮膚に触れたり、吸入することがないように、
　局所排気したり、保護具を着用する。

－作業場を換気する。

－作業中は飲食、喫煙をしない。

－可燃性物質や還元性物質との接触に注意する。

保管

－火気厳禁。

－密栓して換気のよい冷暗所に保管する。

－可燃性物質や還元性物質から離しておく。

8, 暴露防止及び保護措置

通気：換気装置を用いて、ミスト、ほこり、蒸気濃度を低く保つ。

管理濃度（労働安全衛生法）：0.05mg/m3(Cr として)

許容濃度

　日本産業衛生学会(2010 年度)：0.01mg/m3 ［クロムとして（ある種の 6 価クロム化合物）］

　ACGIH(20010 年)： TLV-TWA 0.0005mg/m3 ［クロムとして］

設備対策

　局所排気装置、洗眼器及び安全シャワー。

保護具

－防塵マスク。送気マスク、空気呼吸器等。

－不浸透性保護手袋。

－安全ゴーグル。

－不浸透性保護衣。

9, 物理的及び化学的性質

外観： 黄色粉末

臭い：データなし

pH: データなし

融点： データなし

沸点： データなし

引火点： データなし

爆発範囲の上限・下限： データなし

蒸気圧：データなし

蒸気密度：データなし

比重： 3.89 g/cm3

溶解度： 0.12 g/100 ml（水、15℃）

n-オクタノール／水分配係数：データなし

自然発火温度： データなし

分解温度：データなし

10, 安定性及び反応性

反応性と安定性: 常温常圧で安定

避けるべき条件（静電放電、衝撃、振動など）： 可燃性物質や還元性物質との接触

混触不可物質: 可燃性物質や還元性物質
危険な分解生成物: 燃焼により、有害なガス、ヒュームを発生する。
危険な重合反応:しない

11, 有害性情報

急性毒性 経口

ラットに対する経口投与試験の結果 LD50= 811 mg/kg
［ATSDR (2000) ］に基づき、区分4とした。
飲み込むと有害 (経口) (区分4)

急性毒性 経皮

データなし

急性毒性 吸入:ガス

GHS 定義による固体

急性毒性 吸入:蒸気

データなし

急性毒性 吸入:粉塵ミスト

データなし

皮膚腐食性／刺激性

データ不足

眼に対する重篤な損傷性／刺激性

本物質を特定した報告ではないが、ヒトへの健康影響にて「高水溶性の Cr(VI)化合物溶液を眼に浴びるとヒトの眼に傷害をひきおこす。多数の症例報告が角膜と結膜の炎症を報告しており、より重篤な場合には角膜の糜爛と潰瘍を引き起こす。症状の強さは低い pH や高温で増加する。 事故による接触で角膜の浮腫と混濁」「ヒトで単回又は反復したばく露で潰瘍を含む重篤な持続性の眼と皮膚への傷害が見られている」 との記述があり、クロム(VI)化合物は区分 1 に分類されると考えられるため、クロム酸ストロンチウムも区分 1 とした。 重篤な眼の損傷 (区分1)

呼吸器感作性

データはないが、日本産業衛生学会において、クロム及びクロム化合物を「第2群 (人間に対しておそらく感作性があると考えられる物質)」に、日本職業･環境アレルギー学会特設委員会において、クロムを呼吸器感作性物質に分類していることから、本物質を区分1とした。 吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難を起こすおそれ (区分 1)

皮膚感作性

データはないが、日本産業衛生学会において、クロム及びクロム化合物を「第1群 (人間に対して明らかに感作性がある物質)」に分類していることから、本物質を区分1とした。
アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ (区分 1)

生殖細胞変異原性

データ不足

発がん性

ACGIH で A2 、IARC で group 1 に分類されていることから、区分 1A とした。 発がんのおそれ (区分 1A)

生殖毒性

データなし。

特定標的臓器／全身毒性 (単回暴露)

本物質のデータはないが、クロム酸ストロンチウムの毒性は六価クロムによるものと考えられるが、クロム酸ストロンチウムを用いた試験データがないため分類できないとした。

なお、六価クロム化合物の急性毒性として、「咳、緑黄色痰、呼吸困難、肺うっ血症状、緑黄色粘液嘔吐、腹痛、下痢、悪心、嘔吐、肝臓障害、腎臓障害」がみられたとの報告がある。

特定標的臓器／全身毒性（反復暴露）

本物質のデータはないが、クロム酸ストロンチウムの毒性は六価クロムによるものと考えられるが、クロム酸ストロンチウムを用いた試験データがないため、分類できないとした。

なお、6 価クロムの慢性毒性として、「鼻粘膜、咽喉頭の炎症や潰瘍、鼻中隔穿孔」（CERI ハザードデータ集 97-18 (1998)）がみられたとの報告がある。

吸引性呼吸器有害性

データなし

12, 環境影響情報

－生態毒性

水性環境急性有害性

データなし

水性環境慢性有害性

データなし

13, 廃棄上の注意

中身及び容器の廃棄は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の処理業者に依頼する。

14, 輸送上の注意

運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実におこなう。

国連番号：3288
品名： その他の毒物（無機物）（固体）
国連分類：6.1 （【安全対策】
・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
・使用前に取扱説明書を入手すること。
・この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
・個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。
・換気が十分でない場合には呼吸用保護具を着用すること。
・保護手袋を着用すること。
・粉じんを吸入しないこと。
・取扱い後はよく手を洗うこと。
・汚染された作業衣を作業場から出さないこと。
【応急措置】
・吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。
・皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。
・汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
・ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。
・眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
・呼吸に関する症状が出た場合には、医師の診断、手当てを受けること。

・皮膚刺激又は発疹がおきた場合は、医師の診断、手当てを受けること。毒物)
容器等級：Ⅱ、Ⅲ
海洋汚染物質：非該当
緊急時応急措置指針番号：非該当

15, 適用法令

消防法： 貯蔵等の届出を要する物質（クロム酸ストロンチウム、含製剤）
毒劇法： 第 2 条別表第 2 劇物
旧ＰＲＴＲ法：1-69（六価クロム化合物）（平成１２年３月３０日施行）
新ＰＲＴＲ法：１-88（六価クロム化合物）（平成２１年１０月１日施行）
労働安全衛生法：安衛法通知有害物（施行令、別表第九の番号） 142（クロム及びその化合物）
労働安全衛生施行令: 第 18 条名称等を表示すべき有害物 8 （クロム及びその化合物）
特定化学物質等障害予防規則：第 2 条 特定化学物質 第2類物質 (3)管理第 2 類物質
第 38 条 3 特定化学物質 特別管理物質
大気汚染防止法：優先取組物質
水質汚濁防止法：有害物質（法第２条、令第２条、排水基準を定める省令第１条）
下水道法：水質基準物質（法第１２条の２第２項、施行令第９条の４）

16, その他の情報

参考文献
－メルクインデックス１４版 8841
－ＳＴＮインターナショナル RTECS ファイル AQUIRE ファイル
－危険物船舶運送及び貯蔵規則（十四訂版）国土交通省海事局検査測度課（海文堂）
－改訂第３版 緊急時応急措置指針（日本規格協会）
－NITE GHS 分類データ (ID=109)
－NITE GHS 分類マニュアル（H18.2.10 版）
－製品安全データシートの作成指針（改訂第２版）（（社）日本化学工業協会）
－化学物質総合情報提供システム（CHRIP）（ＮＩＴＥ） http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html
－ICSC No. 0957
－ATSDR (2000)
－TOXNET - Databases on toxicology, hazardous chemicals, environmental health, and toxic releases.

コメント

記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。また、記載物性値は文献値であり、規格値ではありません。
全ての化学製品には未知の有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願いします。また、特別な取扱いをする場合には、新たに用途, 用法に適した安全対策を実施の上でご使用下さい。